

本年度の東京都におけるデング熱対策の現状

東京都福祉保健局健康安全部環境保健衛生課長 齊藤 祐磁

1 はじめに

昨年夏、海外渡航歴のない方がデング熱を発症し、都内を中心に100名を超える感染者が報告されました。近年、海外で蚊に刺されて国内でデング熱を発症する輸入感染症の方は例年100件以上報告されていますが、国内で蚊に刺された方がデング熱を発症したのは約70年ぶりのことでした。

国内でのデング熱感染を受けて、都では電話相談窓口を設置して都民の健康相談や防除方法の相談に応じるとともに、推定感染地とされた公園において公益社団法人東京都ペストコントロール協会の協力の下、公園などで駆除薬剤の散布を行い、デングウイルスを媒介する蚊のサーベイランスを実施しました。

そうした状況を踏まえて、本年度、都では国内感染患者の発生に備えて、デング熱対策の強化に取り組んでいますので、具体的な取組についてご紹介します。

2 これまでの感染症媒介蚊対策

昨年デング熱が都内で発生する以前から都では感染症媒介蚊対策として、蚊の発生を抑制するための取組を行ってきました。各保健所において、施設管理者向けの蚊の発生防止対策の冊子や都民向けの蚊発生防止対策のリーフレットを配布したり、区市町村等の担当者と連絡会などを開催して情報共有を行ってきました。

また、殺虫剤供給に関する協定や契約を関

係団体やメーカーと締結し、蚊の駆除業務等に関する協定を公益社団法人東京都ペストコントロール協会と締結しています。平成16年からは感染症を媒介する蚊の調査監視である感染症媒介蚊サーベイランス事業を公園や霊園等で実施してきました。

3 今年度の新たなデング熱対策

デング熱やその他蚊が媒介する感染症の発生を未然に防止するためには、感染症媒介蚊のサーベイランスを拡充するとともに、施設管理者や都民全体に向けて、今まで以上に蚊の発生抑制対策や蚊に刺されないように普及啓発を図り、発生時の感染拡大防止に備える必要があります。東京都蚊媒介感染症対策会議においても平常時から都民や施設管理者等に対する普及啓発の重要性が示されました。

そこで、都ではこれまでの感染症媒介蚊対策に加えて、今年度から新しい取組を実施し、デング熱対策の強化に取り組んでいます。

(1) 媒介蚊発生の早期探知「サーベイランスの拡充」

都では蚊が媒介する感染症を未然に防止するため、これまで、公益社団法人東京都ペストコントロール協会に業務委託を行い、16施設で蚊を捕集して病原体の保有状況を調査する感染症媒介蚊サーベイランスを実施してきましたが、本年度からは、新たにデング熱対策に特化したデング熱サーベイランスを4月20日から開始しています。

本年度の東京都におけるデング熱対策の現状

媒介蚊を早期に発見して防除するために、区部の9施設(公園)を新たに選定し、蚊の成虫と幼虫を定期的に調査しています。デング熱サーベイランスの概要は次のとおりです。

① 調査施設

調査施設は、海外渡航者がよく訪れたり、大きなイベントが開催される代々木公園、日比谷公園、浜離宮恩賜庭園、戸山公園、上野恩賜公園、駒沢オリンピック公園、光が丘公園、猿江恩賜公園、葛西臨海公園です。

② 調査時期

4月から11月まで各施設で蚊の調査を行います。

③ 調査対象の病原体

蚊を捕集し、デングウイルスを保有していないか検査を行います。

④ 調査方法

調査時期や目的に応じて次の3つの方法で調査を行っています。

○捕集装置によるモニタリング(5月から10月まで)

調査地点に蚊の捕集装置(トラップ)を設置し、1箇所あたり約24時間の捕集を行い、捕集された蚊の種類の同定とデングウイルスの遺伝子検査(デングウイルスの有無を検査)を東京都健康安全研究センターで行っています。



蚊の捕集装置

○蚊取網によるモニタリング(4月と11月)

蚊取網を使用して蚊を捕集(スウィーピング法)し、蚊の種類の同定とデングウイルスの遺伝子検査(デングウイルスの有無を検査)を東京都健康安全研究センターで行っています。



スウィーピング法による蚊の捕集の様子

○蚊の幼虫(ボウフラ)発生調査(4月から11月まで)

成虫の調査だけでなく雨水ます等にいる幼虫(ボウフラ)も捕集し、幼虫の発生状況を調査しています。



雨水ますから幼虫を捕集する様子

ウイルスを媒介する蚊を早期に発見・防除するためのサーベイランスを拡充させることで、感染拡大の防止を図っています。

(2) 蚊の発生抑制「蚊の発生防止強化月間」

デング熱等の蚊が媒介する感染症の発生を抑えるために重要な蚊の発生防止対策を都民へ広く知っていただくため、蚊が本格的に発生するシーズン前の6月1日から6月30日までの期間を「蚊の発生防止強化月間」と定めて、都

民や施設管理者向けに蚊の発生防止を呼びかけました。

東京都「蚊の発生防止強化月間」シンボルマーク



蚊をなくして快適な夏を！

シンボルマーク

蚊の幼虫(ボウフラ)は、水中で成長し、蛹(さなぎ)を経て成虫になります。したがって、水の無いところから蚊は発生しません。デング熱などの感染症を媒介する蚊を減らすためには、成虫の蚊を駆除するよりも、水中に生息するボウフラを退治するほうが効果的です。

そのため、蚊の発生防止強化月間の各キャンペーンでは、幼虫(ボウフラ)対策として次の3つを呼びかけています。

- ◇不要なものは片付けましょう。
- ◇たまり水をなくしましょう。
- ◇週1回は清掃や水の交換等を行いましょ
う。

これらの対策は、建物の種類・用途・場所等にかかわらず、至るところで蚊の発生を防止するのに有効な対策です。幼虫(ボウフラ)が成長しない環境作りがデング熱の発生を抑えることにつながります。

また、蚊の発生防止強化月間に合わせて次の取組を行いました。

① ポスターの掲示

「水の無いところに、蚊はたたぬ。」というキャッチコピーとともに、身の回りにある水たまりを示したポスターを強化月間に合わせ

て集中的にJ R、京王電鉄、小田急電鉄、西武鉄道、都営地下鉄、東京メトロの主要208駅の構内、区市町村庁舎、保健所及び公園等で掲示しました。



蚊の発生防止強化月間ポスター

② J R及び都営地下鉄車内での広告

J R山手線、中央線快速、京浜東北線、京葉線等の車内トレインチャンネルで啓発CMを放映したり、都営地下鉄線の車内窓上にポスターを掲示したりして、身近なところからできる対策について啓発を行いました。

③ ラッピングバスの運行

電車や駅等を利用されない方にも広く知っていただくために、都営バス4台の側面や後面にポスターと同様のイラスト等を描いたラッピングを行い、新宿、小滝橋、早稲田、深川営業所の路線でラッピングバスを運行しました。



ラッピングバス

本年度の東京都におけるデング熱対策の現状

④ 公開講座の開催

蚊の発生抑制について、一人でも多くの方々に知っていただき、身近なところから対策を講じていただけるように、都民や施設管理者向けの感染症媒介蚊対策講習会「今から始めるデング熱対策」を6月10日に渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにて開催し、定員を超える多くの方々に来場いただきました。



感染症媒介蚊対策講習会

⑤ パネルの展示

普段、蚊の発生防止対策の冊子やリーフレットを目にする機会のない方でも注目していただけるように、ポスターや蚊の発生防止対策のリーフレット等をパネルにして、都庁内のパネル展示スペースや各保健所の展示コーナー等で展示を行っています。



パネルの展示

⑥ 冊子・リーフレットの作成配布

昨年夏のデング熱発生を受けて、これまで配布してきた蚊の発生防止対策をまとめた冊子及びリーフレットを改訂しました。施設管

理者向けに作成した冊子「施設管理者向け蚊の発生防止対策 ～蚊媒介感染症防止のために～」を公園、建物、学校等の施設管理者へ配布し、蚊の発生防止対策を推進しています。

また、都民向けに作成したリーフレット「蚊をなくして快適な夏を！ー感染症を媒介する蚊の発生防止対策ー」を区市町村や保健所窓口で都民に配布しています。

冊子やリーフレットは、東京都のホームページからもダウンロードすることができます。

(<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kankyo/eisei/yomimono/nezukon/ka/mosquito.html>)



冊子「施設管理者向け 蚊の発生防止対策」表紙

(3) 発生時の感染拡大防止

患者発生を早期に探知し、蚊の駆除等を速やかに実施するため、デング熱に感染した疑いのある方への迅速検査や患者情報の分析を行って対策にいかすとともに、都民等への必要な情報提供を行っています。具体的な取組としては次のとおりです。

① 検査体制の整備

蚊に刺された後に高熱を発症するなど、デング熱に特徴的な症状が見られ、医療機関で

デング熱が疑われた方について、東京都健康安全研究センターにおいて迅速検査等を実施します。

② 医療機関向け研修会の開催

海外渡航者や外国人患者を診察する医療機関の方々を対象として、適切な診療が行えるように医療機関向け研修会「デング熱など海外から輸入される感染症への対応」を7月13日に都庁第一本庁舎・大会議場にて開催しました。

③ 患者発生時等にハイリスク地点の情報公開

患者発生時等に、行動履歴(蚊に刺された場所など)等の情報を地理情報システムで集積するシステムを構築し、蚊のサーベイランス情報と合わせて総合的に評価することにより、ハイリスク地点(感染症媒介蚊の発生の可能性がある場所)を絞りこみ、ハイリスク地点の情報をホームページ等を通じて都民等に情報提

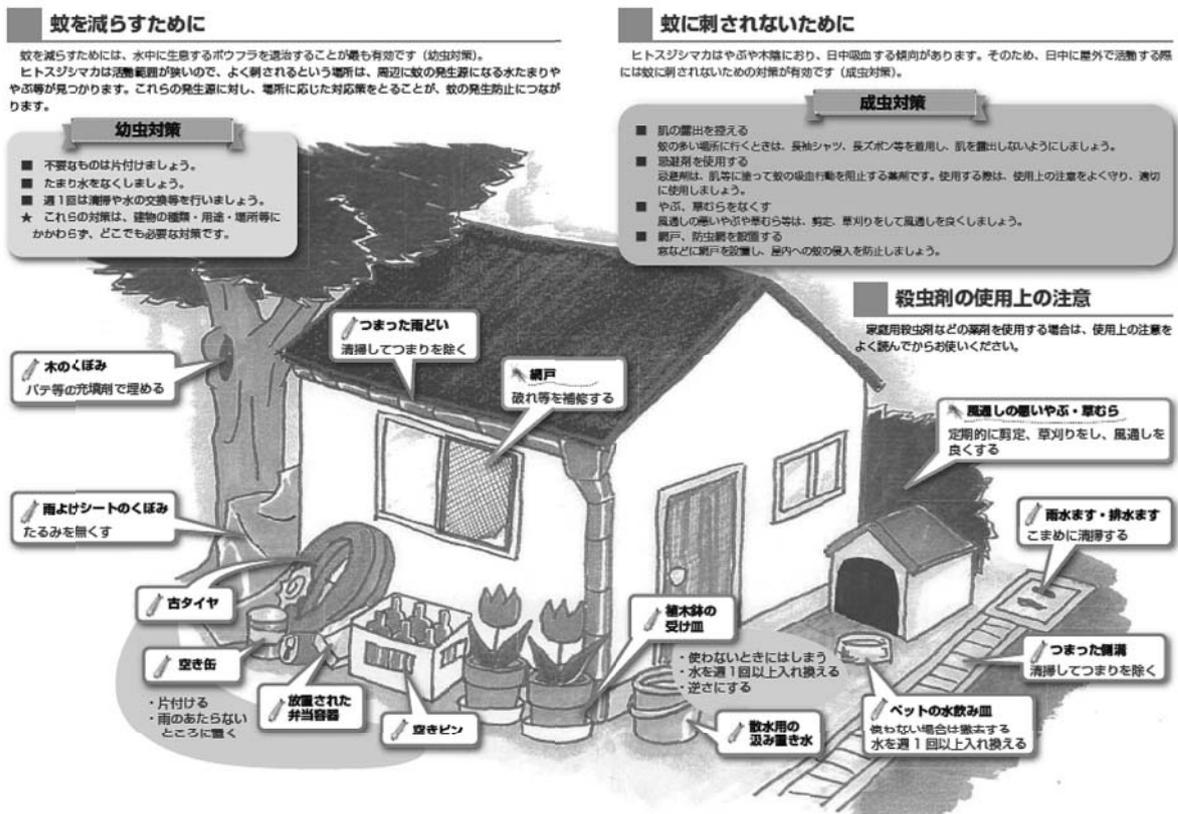
供をしていきます。

4 おわりに

デング熱対策で一番有効な方法は、ウイルスを媒介する蚊の発生を減らし、抑えていくことです。そうした行動を積み重ねることで蚊が生息しない環境が整い、デング熱の発生を防ぐことができます。

蚊媒介感染症であるデング熱の発生を防ぐためには、行政や関係機関の働きだけでなく、それぞれの施設管理者や都民一人ひとりが蚊の発生を防ぐように行動し、地域一丸となって協力していくことが大切です。

都では、引き続き蚊をなくして快適な夏を過ごせるように、公益社団法人東京都ペストコントロール協会の協力の下、デング熱対策を推進していきます。



リーフレット「蚊をなくして快適な夏を！」中面